

分担研究報告

「CBRNE テロリズムへの
対応における矛盾に関する研究」

研究分担者 竹島 茂人

(自衛隊中央病院 診療科 総合診療科部長)

分担研究報告書

「CBRNEテロリズムへの対応における矛盾 に関する研究」
研究分担者 竹島茂人（自衛隊中央病院 総合診療科部長）

研究要旨

CBRNEテロを想定した訓練を行うと次のような常識に従わなければならない。
①爆弾テロでは、2つ目もしくは3つ目の爆発があるので現場の安全化を行わなければ現場に進入してはならない。②爆弾の中に、C剤やB剤もしくはN剤が入っているかもしれないので、それらの検知を行わなければならない。③NBC剤が検知されれば、ゾーニングをして人の出入りを制限し、ホットゾーンにはタイプAの防護衣を装着した者しか入ってはならない。また傷病者は現場で水除染を行わなければ、医療機関へ搬送してはならない。以上の常識に従うと現場で傷病者は、短くて30分 場合によっては1時間以上の待ち時間を我慢しなければならない。その待ち時間の中に、多くの傷病者は死亡するか重篤な状態に陥ってしまうことは、想像に難くない。

日本が過去に経験したNBC災害と対テロ先進国であるイスラエルのテロ対応から、日本が行うべき現場におけるテロ対応を模索した。

A. 研究目的

CBRNEテロ・災害時に現場で起こる矛盾を見出して、対応策を提言する。

B. 研究方法

松本サリン事件、地下鉄サリン事件についての報告書や文献、そしてイスラエルのテロ専門家の講演等による情報収集を行う等、大量殺傷型テロに関する情報を収集し、分析・検討した。

（倫理面への配慮）

既に発表されている文献等が対称なので、倫理的配慮は不要。

C. 研究結果

・松本サリン・地下鉄サリンからの教訓

特に地下鉄サリン事件では、当初は神経剤によるテロとは誰も考えていなかったために、防護衣なしで救助・搬送そして治療を行っている。神経剤のコンタミネーションで医療従事者が縮腫した報告はあるが、治療が必要な状態に陥った報告はない。

・現場での除染について

脱衣による乾的な除染のみで、99%の除染効果があるとの報告がある。現場で水的除染を行うことが、現時点で常識となっているが、早期の搬送と治療開始を優先する際には、乾的除染のみを現場で行うのが適切と考える。

・現場の安全化について

爆弾テロが発生すると、2つ目の爆弾に

注意が必要である。そのために、現場の安全化がなされなければ救急隊は現場に入らないという原則が作られてしまっている。が、誰が現場の安全化を宣言するのか？警察は、何を根拠にして現場の安全化を保障できるのだろうか？また警察は、自身にそのような任務があることをそもそも理解しているのだろうか？

・警察による現場検証のための規制線そして消防によるゾーニングは必要か？

そもそも現場で患者の搬送を行っている最中に、規制線を張る必要性があるとは到底思えない。消防学校で平成31年 1月25日に行われたサリン散布シナリオでも訓練の際に、現場に駆けつけた警察官が張った規制線が患者搬送を妨害していたのを見ている。

消防によるゾーニングについても、その目的や効果について再検討すべき時期に来ていると考える。タイプAの防護服についても、それが必要となるケースは非常に稀でサリン等の神経剤使用では、タイプCで十分であることは周知の事実である。

D. 考察

テロ先進国であるイスラエルでは、ポリシーを持ってテロ対処されている。「テロが起こっても被害を最小限に止め、なるべく早くテロ発生前の状態に現場と社会を復帰させる」が重要とされている。従ってテロが発生しても被害を最小限に止めるために、以下の4つが行われる。①20分以内に現場から全ての傷者を搬送する。②1時間以内に傷病者は病院で治療が開始される。③警察による現場検証は3時間以内に終了し、3時間後には交通規制等は解除されてテロ発生前の状態に戻す。④1週間以内に破壊された壁や建物等の修復を終了する。

もし、日本でテロが発生したら、マスコミは、長期にわたって繰り返し、大々的に報道して国民のレジディエンスを低下させるであろう。テロ現場は警察の管理の下、長期にわたって保存され、マスコミはそのテロ現場を繰り返し国民の目に触れさせるであろう。テロリストは、それを見て大いに喜び、繰り返しテロを行うことを決意するであろう。

E. 結論

テロ対策を本気で行うならば、対テロ教育をしっかりと行い、日本社会が正しくテロ対処できるようにしなければならない。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし。
2. 学会発表

第24回 日本災害医学会総会
シンポジウム6「大量殺傷型テロに対する諸問題」SY-1「CBRNEテロ・災害時に現場で起こる矛盾」
(第23巻/第3号 Japanese J. Disaster Med. 2019, Mar. 90)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得：なし。
2. 実用新案登録：なし。
3. その他：なし。